

# 第2学年 外国語科学習指導案

令和5年11月29日 5校時

真志喜中学校 2年5組35名

授業者 金城 梨穂

## 1 単元名 Unit6 「Work Experience」 (光村図書 Here We Go! 2年) 年間指導計画 (11月) 指導内容

### CAN-DO List (書くこと)

日常生活や学校行事で得た経験やその感想など、事実や自分の考え、気持ち等を整理し、まとまりのある文章を書くことができる

## 2 単元の目標

- (1) to 不定詞や because の基本的な用法を理解することができる。(知識及び技能)
- (2) 自分が体験したことについて、自分の考えや思いを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 自分の考えや思いを、相手にわかりやすく伝えようと工夫している。(学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元について

### (1) 教材観

本単元では、中学校学習指導要領の「話すこと」と「書くこと」に関連する内容を取り扱い、最終的には「書くこと」の「イ. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」ことを目標にする。

本単元の題材は「職場体験」である。教科書における単元のゴールは、生徒自身が職場で体験したことや感想などを書くことが設定されている。言語材料としては、不定詞の形容詞的用法と接続詞の because が加わる。Because を使うことで、感想や気持ちに理由をつけることができるようになり、表現の幅が広がることができる。教科書では、登場人物が職場体験において苦労した点や楽しかったことを、理由をつけて述べている。それを参考に生徒自身にも使えそうな表現があることに気づかせながら、自己表現活動に繋がられるように意識を向けさせたい。目的・場面・状況を明確にしたやり取りや、スモールトークを通して、生徒が書く内容が深まるような授業を展開したい。

### (2) 生徒観

本学級の生徒は、ペア学習やグループ活動において、互いに協力しながら活動に取り組むことができる。5月に実施した本校独自のアンケートでは、「英語の授業で学んだことは将来役に立つと思う」という問いに、8割の生徒が肯定的に答えており、英語を学ぶことの重要性は理解していると考えている。一方で、授業には参加をするが英語をとて苦手としている生徒、特別な配慮を必要としている生徒も合わせて6名ほどいる。その為、お互いに学び合いながら授業が進められるようペア活動を意図的に取り入れている。

また、アンケートを通し「書くこと」を苦手としている生徒が7割もいるということもわかっている。理由として、「何を書いていいのかわからない」「どういう順番でかけばよいかかわからない」という答えであった。「書くこと」に関し、特に「まとまりのある文を書く」ということに対しては、諸調査結果からも本校英語科全体の課題だと感じている。実際、今年度の全国学力・学習状況調査において、正答率が最も低かったのは「学校生活の中から紹介したいものを一つ取り上げ、まとまりのある文を書く」であった(全国正答率7.4% 沖縄県3.2% 本校2.8%)。これらを踏まえ、スモールトークで言い慣れる活動を組み込むことで、「書くこと」へのハードルを下げ、まとまりのある文を書けるように工夫していく。

### (3) 指導観

本単元の最終 Goal では、生徒自身が職場体験のレポートを書くことを目標としている。しかし、コロナ禍ということもあり本校では職場体験を行っておらず、実際の職場体験について書くことは困難である。そこで最終ゴールを、自分が日常生活で得た経験を、考えや思いを含めて伝えるという点に着目し、「新しい ALT の先生に宜野湾市の魅力を紹介し、歓迎の気持ちを伝えよう」と設定した。本校は 10 月に新しい ALT を迎えたばかりである。その ALT に宜野湾市の良さを知ってもらい、互いの距離感を縮めることで、より良いコミュニケーション活動を図ることが狙いである。生徒が場面設定を理解し、ただ自分たちの地域を紹介するだけではなく、どこにポイントをおいて紹介すれば宜野湾市の魅力を伝える事ができるのか思考を巡らせることで、外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることができるよう指導していきたい。「書くこと」においては、Unit1、2、4 において取り組んできた。何かを伝える時の留意点として、伝える相手の興味や出身背景を考えることの重要性は生徒に伝えて続けている。授業の最初のスモールトークからアイデアをアウトプットし、そのアイデアをもとに「書く活動」に繋げていくことで、苦手な生徒でも取り組めるよう工夫していきたいと考える。

## 4 単元の評価規準「書くこと」

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	〈知識〉不定詞の副詞的用法や接続詞 because の構文について理解している。 〈技能〉自分たちの学校について、自分の考えや感想などを不定詞の副詞的用法や接続詞 because を用いて、まとまりのある文を書く技能を身につけている。	赴任したばかりの ALT の先生に、宜野湾市の紹介や魅力、また体験してほしいことなどを、理由を含めながら書いている。	自分が住んでいる地域の良さを、理由も含めながら、書こうとしている。

5 単元の指導計画と評価計画（全9時間） \*○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

時	ねらい・学習活動 目標 (■) 主な言語活動等 (丸数字)	評価規準			備考
		知技	思辨	態度	
1	単元オリエンテーション 単元のゴール パフォーマンステストの内容確認				<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の帯活動で身近な話題に関する「話すこと（やりとり）」の言語活動（Small Talk）を行う。</li> <li>・自分の考えを伝える際は、語句ではなく文で伝えさせる。</li> <li>・後日行うパフォーマンステストに向け、毎時間 small talk に取り組ませる。</li> <li>・毎時間の学習の振り返りは適宜行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に活かすことは毎時間行う。活動させているだけにならないよう留意する</p> </div>
2	<p>■Part1 Kota の職場体験先での様子を読み取る。</p> <p>①Small Talk</p> <p>②Read 教科書の本文を聞いたり、読んだりして概要を捉える。</p> <p>③Listen Nick と Tina の会話から、Nick が勉強する理由を聞き取る。</p>				
3	<p>■不定詞「～するために」の用法を理解する。</p> <p>①small talk</p> <p>②不定詞副詞的用法(目的)の使い方を理解する。</p> <p>③Speak 英語を勉強する目的を友達とやり取りする。</p> <p>④Write 自分と友達の英語を勉強する目的を書く。</p>				
4	<p>■ALT の先生に真志喜中学校の魅力を伝えよう。</p> <p>①Small Talk</p> <p>②Speak 自分の好きな有名人を自分が好きな理由とともに友達とやり取りする。</p> <p>③接続詞 because の使い方を理解する。</p> <p>④Write やり取りした内容をもとに、「真志喜中学校の紹介」で、なぜそこを選んだのか理由とともに書く。</p>				
5	<p>■Kota が学んだことを本文スピーチから読み取る。</p> <p>①Small Talk</p> <p>②本文を通して、because が入った文を理解し、教科書本文の概要をつかむことができる。</p> <p>③教科書本文から、文章を始める時の「型」を学ぶ。 Today, I will talk about ～</p> <p>④地域行事で経験したことを伝え合う。</p>				
6	<p>■不定詞の副詞的用法を理解する。</p> <p>①Small Talk</p> <p>②最近の出来事で、うれしかったことをペアで伝え合う。</p> <p>③不定詞の副詞的用法を用いて昨日の出来事を日記にして書く。</p> <p>④地域のお勧めのイベントを感想と共に伝え合う。</p>				
7	<p>■Kota が感じた思いを教科書本文からよみとる。</p> <p>①本文を通して Kota が苦労した思いなどを読み取る。</p> <p>②一連の職場体験の内容を振り返り要点をまとめる。</p>				
8	パフォーマンステスト 単元のまとめ	◎	◎	◎	

## 6 単元末または学期末におけるパフォーマンステストとルーブリック

### (1) パフォーマンステスト

真志喜中学校に新しいALTの先生が来ました。バルド先生は宜野湾市について、あまり知らないそうです。さあ、バルド先生に宜野湾市の魅力を紹介しましょう！

### (2) ルーブリック

	知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	誤りのない正しい英文で書くことができる。	どうすれば相手に伝わるのかを考え、自分の考えや気持ちなど理由を含めながらまとまりのある文で書いている。	相手に伝わりやすい表現で、自分の考えや気持ちなどをまとまりのある文で書こうとしている。
B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて書くことができる。	相手に伝わりやすい表現で、自分の考えや気持ちなどまとまりのある文で書いている。	自分の考えや気持ちを書いている。
C	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

## 7 本時の指導（4／8時間）

### (1) ねらい

ALTの先生に真志喜中学校の魅力を伝えよう！

### (2) 本時の評価規準

評価の観点	思考・判断・表現
評価の規準	真志喜中学校の魅力を伝える為に、伝える相手を意識し、自分の考えを整理して文を書いている
評価方法	授業内：観察 授業後：ワークシート

### (3) 「めざす子供の姿」の実現に向けた授業改善

場面	工夫点	めざす生徒の姿
話す場面において	speaking①の後に、全体でアイデアを共有する場、全体で疑問を解決していく場を設定する。	speaking②では、自信を持って話すことができる。
書く場面において	ペア活動を取り入れ、互いのアイデアを共有する。	相手に伝わる英文を書くことができる。

(4) 展開 (第4時)

過程	学習活動・内容・発問など	予想される生徒の反応	指導上の留意点
つかむ 見通す 10分	<p>1. Small Talk Let's talk about my favorite! 「Who is your favorite??」</p> <p>2. めあての確認</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;">Today's goal 真志喜中学校の魅力を ALT の先生に紹介しよう!</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師—生徒、生徒—生徒間で会話ができるようにする</li> <li>・ why を使いながら、自然と because ができるように会話を促す</li> </ul>
考える 深める 35分	<p>3. 紹介したキーワードを個で考える 「紹介したい行事、部活、面白い友達等」</p> <p>4. ペアでお互いに出てきたアイデア (キーワード) を確認 アイデアを深めていく</p> <p>5. Speaking① 紹介したいことを英語で話してみよう</p> <p>6. 全体 share 及び中間指導 ○いくつかのペアに発表してもらい、その内容を全体でシェアしていく ○中間指導</p> <p>7. Speaking② シェアされた内容をもとに、再度スピーキングにチャレンジする</p> <p>8. Writing スピーキングで話した内容や、ペアで考えたアイデアをもとに、文を作り上げていく</p> <p>9. peer assessment お互いが書いた文章をペアでチェックしていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの考えを共有し、新たな視点を発見する</li> <li>・即興で話してみる</li> <li>・「どう表現すればいいのだろう」という疑問を引き出し、みんなでシェアしながら解決していく</li> <li>・どのような構成で書けばより相手に伝わるのか考える</li> <li>・お互いの文を読んで、単語や文法上のミスを訂正する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なキーワードが出るように支援する (ICT 活用)</li> <li>・自分の好きな行事や場所が出るようにしていく</li> <li>・生徒の発言や「こう言いたかったけど言えなかった」等の発言を拾い、表現を広げていくようにする</li> <li>・伝える相手を意識し、文を構成するよう支援する</li> </ul> <p>【思判表】 友達の意見を踏まえ、自分の考えを整理して書くことができる。(ワークシート)</p>
まとめ 5分	<p>10. 振り返り 本時の学習を振り返って、相手に伝えるために工夫した点、ペア活動で学んだこと気づいたことを書く</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい気持ち、英文を書いたことを褒め、次の書く活動への意欲につなげる</li> </ul>

(5) 板書計画

単元ゴール：バルド先生に、宜野湾市の魅力を紹介しよう！

Today's goal: バルド先生に真志喜中の魅力を伝えよう！

★Key words            ★Let's write!!

- ・ 行事                    ・ Mashiki is a good school because . . .
- ・ 部活                    ・
- ・ 紹介したい人は？

Reflection 伝える為に工夫したこと、疑問に思ったことなど